

れんごう中越地協

第1127号2022.11.11
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
定 価 1部10円



連合中越SUNネット委員会

大地の芸術祭観賞とセミナー

10月22日(土)S J ネット委員会研修会として学びを目的に大地の芸術祭の鑑賞と、ろうきん資産形成セミナーを行った。

大地の芸術祭の開催地域は広大で十日町、川西、中里、松代、松之山、津南の6つのエリアで構成され、今回は十日町エリアの主要施設である『越後妻有里山現代美術館』と『鉢&田島征三の絵本と木の実の美術館』を鑑賞した。

18年の来場者は18万人。人気のスポットには、1日5000人の来場者がある所も。年々全国各地からの観光客が増えている。

はじめに訪れた『越後妻有里山現代美術館』は、03年『越後妻有交流館 キナーレ』として誕生。21年には一部を改修して『越後妻有里山現代美術館』としてリニューアルオープンした。トリックアートの作品や廃材を使ったアートなどが展示されており、予定時間内に全ての作品が見られないメンバーも多くいた。

大地の芸術祭の施設鑑賞の後は、当間高原リゾートベルナティオに移動し、昼食を挟み『ろうきん資産形成セミナー』。新潟ろうきん長岡支店渡辺氏より講義して頂いた。

渡辺氏はS J ネット委員長でもあり、普段と違った一面を見るこ



次の『絵本と木の実の美術館』は、山と山に囲まれた場所に鉢と中心にある小学校が少子化のため廃校になり、鉢集落の人々と絵本作家の田島征三によって、古い校舎が体験型の空間・絵本美術館として生まれ変わった。



10月23日(日)柏崎市の新潟工科大学で開催されたワーク&ライフフォーラムに参加した。

笹井実行委員長、柏崎西巻副市長の挨拶の後、諏訪総合病院院長の鎌田實先生の記念講演に移った。テーマは「地域で命を支える」で前半は「健康づくりに、後半は「絆」助け合いを考える」であった。

慢性炎症(サイレントキラー)から起こる動脈硬化・脳卒中・心筋梗塞・糖尿病・脂肪肝・認知症・鬱病・がんを防ぐには野菜を一日350g摂取して抗酸化力をつけることや筋力をつけることが必要と言う。農業県である新潟県民の野菜摂取量は平均300gで目標より50g足りない

また、筋肉をつけるには「ウォーキング」「スクワット」「ストレッチ」等が良く、ウォーキングは一日8千歩程度で歩行中にスクワットを絡めて行う。歩行は「大股歩き」「速足歩き」「ゆっくり歩き」を3分位の繰り返しで行うことが良く、多く歩くことが必ずしも良いとは限らない

日本ではいまだに社会保障を「弱者救済の制度」と理解している人が多いようですが、社会保障は社会的弱者や低所得者など「特定の人たち」のための制度ではありません。社会保障は「すべての人」のための制度です。▼「社会保障の最も大事な機能は、市民が直面する様々な生活上のリスクを社会連帯の仕組みを通じて軽減することで市民が貧困や生活困窮に陥ることを防ぐ(＝防貧)社会の安定を図る(＝民生の安定)」とともに、市民一人一人が思い切つて自分の可能性に挑戦できるようなこと、すなわち「市民の自己実現への営為」を支えることにあります。▼(民主主義のための社会保障・香取照幸著より)▼特に政治の世界では「社会保障は国民を怠惰にして競争力を削ぐ」社会保障亡国論」や「規制緩和すれば経済成長できる」という神話がはびこっています▼8年前の連合評価委員会最終報告で『あら

ゆる社会の領域に競争原理を導入し規制緩和を行うことだけが、「構造改革」であるかのようには喧伝されている現状は、問題である。人間が共同生活を営む社会には、本来、協力や連帯が存在しなければ社会そのものが成り立たないにもかかわらず、それを無視して、日本社会が真に必要な「改革」を追求しないままに、競争主義・市場主義を至上理念として走ることが、明日への希望につながっていきません。』と指摘していることですが、社会的セーフティネットが穴だらけで、一度失敗したら這い上がれない自助社会の日本では、いくら規制緩和をしても、失敗を恐れてベンチャー企業も育たないし、イノベーションも起こらないと言われてきました。その結果が今の日本経済の状況です▼今さら分配重視のふりをして「新しい資本主義」といわれても、時代はもうとつとくに先に

私はいち話を聞いた。私は一日1万歩を目標に毎日ウォーキングをしていてので今後の歩き方を考え直す必要を感じたが、一日1万歩は変える気はない。後半は、先生が関わったボランティア(チエルノブイリの医師団の派遣・イラクの小児病院医療支援・ウクライナ避難民支援)裏面へつづく

副議長 横澤勝之

あたご3 No.66

サラリーマン川柳(帰宅後も 妥協と譲歩の 繰り返し) (木枯らしは 俺の財布も 吹き抜ける) (子の受験 学費を聞いて 親受難) (夏太り 戻らぬうちに 秋太り)

